

地震災害予測研究会（第7回）議事要旨

日 時：平成25年1月31日(木) 15:00～17:15

場 所：貸し会議室プラザ 八重洲北口 5階3号室

出席者：（順不同、敬称略）

（委員）北川良和 翠川三郎

和泉正哲 瀨瀬一起 林康裕 腰原幹雄 緑川光正

（機構）大滝(リスク業務室長) 江口(火災・地震保険部)

（事務局）損保料率機構リスク業務室

議 事：

1. 研究期間の延長について

A. 事務局より、研究期間を平成25年度まで1年間延長することを提案し、了承された。

2. 住宅の損壊被害予測手法に関する研究について

A. 研究事業の委託先より、耐震基準等の変遷および地震保険実績データの分析結果から、被害関数を作成する区分案を検討した結果を報告した。また、木造建物、鉄骨造建物、鉄筋コンクリート造の地震応答解析方法に関する検討の進捗を報告した。

B. 委員から、下記の意見があった。

1) 木造建物の在来工法には様々なものがある。また、時代によって徐々に移り変わるものであり、地域によっても異なる。それらの違いが被害予測の精度に与える影響は確認しておくといよい。

2) 地震応答解析に使う復元力特性やパラメータは、解析結果が地震保険実績データと整合するように設定するのではなく、工学的知見から設定し、解析結果が地震保険実績データと整合しなければ、その理由を検討した上で調整する進め方がよい。

以 上